

住宅と玄関ドア その2

Vol. 11

P

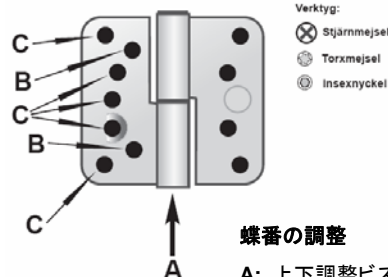
第11号のポイント

1. 玄関ドアには蝶番が3つあり3点でドアの重さを支えている。
2. 自然素材の「木」を長く使っていく秘訣は調整機能である。
3. 玄関ドアの感心する点はデザインと木工技術の融合！

?

筆者プロフィール

金井田晃央(かないだあきお)
 1975年 群馬県生まれ
 日本大学大学院(建築・構造)を卒業後、スウェーデンへ渡る。
 スウェーデンで住宅・建材の輸出マネージャーを10年間務める。
 河本工業の次世代型住宅である“Komoto Hus”(河本ヒュース)の開発メンバーに携わる一人。
 スウェーデン住宅・建材・家具等の輸入手配を主に担当している。
 筆者ホームページ：
<http://mala-gruppen.com>



蝶番の調整

- A: 上下調整ビス
 B: 左右調整ビス
 C: 固定ビス

スウェーデン製木製断熱ドアのデザインと蝶番の調整機能

Hejsan! 前回は、スウェーデン製の木製断熱ドアは重厚で、重さは約100kgもあるとお話しましたが、一体どうやってそんな重いドアを開け閉めするのでしょうか? その答えは蝶番にあります。普通のドアは、蝶番が2つですが、スウェーデンのドアには、頑丈な蝶番が3つも付いています。つまり、ドアの重さを3点で支えているため、片手でも簡単に開閉することができるというわけです。

ドアを使っていくうちに、もし、ドア扉がドア枠に当たるようになったら、蝶番にある調整機能を使って、ドアの位置を調整します。この調整は、ドアの扉を上下左右に微調整するものです。さらに調整が必要な場合は、ドア枠にある調整機能を使います。このようにスウェーデンでは、木製のドアや窓が必ず調整できるようになっています。これが自然素材である「木」を長く使っていき秘訣でもあるわけですね。

しかし、最も感心する点は、玄関ドアのデザインと木工技術の融合でしょう。デザイナーが玄関ドアの形状をスケッチし、イメージに合わせて、樹種や素材を選択し、木工職人がその形状を具現化していきます。ドア一つひとつに対し専用のパーツが用意されます。そのため職人の手作業が多くなってしまいますが、こだわりの逸品ができ上がります。工場を見学すると、職人の強い情熱が伝わってきます。

玄関ドアは、その家の「顔」とも言われます。家に入るときに最初に触れるものでもあります。だからこそ、デザインもカッコよく、質感もよいものを選びたいですね。スウェーデンの玄関ドアは、よく、「かわいい」と言われます。しかし実際に触れてみると、とても重厚で木のつくり込みに驚かれます。そのギャップがまたよいのかも知れませんね。次回は、スウェーデンの階段についてお話しします。もちろん木製の階段です。きっと「これが木製?」と思うはずです。お楽しみに!

Innovation : イノベーションとは、これまでのもの、仕組みなどに対して、

全く新しい考え方や技術を取り入れて新たな価値を生み出し、社会的に大きな変化を起すこと。